

平成 28 年度 第 2 回海上の森運営協議会

日時：平成 29 年 3 月 22 日（水）10 時 00 分～12 時 01 分

場所：あいち海上の森センター 3 階 研修室

出席者：青山裕子委員、上田喜久委員、浦井巧委員、大谷敏和委員、
國村恵子委員、鈴木正司委員、曾我部紀夫委員、高野雅夫委員、
田中隆文委員、森眞委員（五十音順）

1 あいさつ

あいち海上の森センター所長 小林 敬

2 協議事項等

(1) 報告事項

ア 平成 28 年度海上の森保全活用事業の取組状況について（資料 1）

イ 海上の森自然環境保全地域維持管理事業について（資料 2）

(2) 協議事項

ア 海上の森保全活用計画 2025 の進捗管理について（資料 3）

イ 平成 29 年度海上の森保全活用事業の実施計画について（資料 4）

「(1) 報告事項ア、イ」について、事務局から説明

【座長】 まず資料 1 の海上の森センターの事業についての御質問、御意見があればお願い
いたします。

【委員】 危険木として伐採したと思いますが、駐車場の手前のところにマンサクがあり
ました。大きな木で道路のほうにかなり突出していたので伐採されたものと思いますが、
もう少し気を遣っていただきたい。

マンサクは海上の森ではあまり数は多くなく、あそこは皆さんが知っている場所で、「春
になったらここでマンサクが咲く」というそのメインの木がばっさりやられてしまった。

【座長】 シンボリックな木ということですね。

【委員】 しかも、「マンサク」という名札がついている木です。整備するということは分
かりますが、森を歩いている者としては、もう少し配慮していただきたい。

【座長】 心のこもった整備ということですね。

【事務局】 申しわけございません。駐車場の手前の市道のところですね。おそらく結構枝が張ったりした関係で伐採されたと思います。春にマンサクの花が咲くのを楽しみにしている方も大勢いらっしゃるので、伐採にあたってはそのあたりを調整したいと思います。ありがとうございました。

【事務局】 補足しますと、駐車場より手前側で、大変木が茂ってしまっていて、大型車やバスが通りにくくなっておりましたので、こちらから市の維持管理課にお願いした経緯があります。お願いするときにあらかじめ注意をしておけばよかったと思います。申し訳ありませんでした

【座長】 フォーラムについて来年度以降どうされるかというあたりを委員から少しお話しいただけますか。

【委員】 後継組織として「あいち海上の森フォーラム実行委員会」を立ち上げ、11月26日設立総会を開催し、来年度の事業を今詰めているところです。資金的に苦しいところもあり大きなことはできませんが、シンポジウムを1回開催するのと、団体の会員の方の取り組みをフォーラムの連携事業として実施していきたいと考えており、4月から募集を開始したいと考えております。

資金的には、できればあいち森と緑づくり事業を導入させていただいて、それでやっていきたいと考えております。

フォーラムの形についても今後考えていかないといけないと思いますが、いろんな形で協力を頂きながら進めていきたいと思っております。よろしく申し上げます。

【座長】 ほかにいかがでしょうか。

【委員】 海上の森センターの事業の中で、例えば体験学習とか人材育成がありますが、定員に対して参加者数が上回っているものがとても多くて、参加率が100%超ということで、うれしいことですが、今後も希望者全員を受け入れようというような捉え方ですか。

例えば人材育成の森女とか森の保育者といったものについて、自分の主催団体や他団体を見ておりましたが、参加者に「森のようちえんのために」など、本当に「指導のスキルを磨きにきました」という方がとても多くなっているのが現状です。

今後受け入れ側のスタッフや先生のキャパシティと定員の関係について、どのようにお考えですか。

【座長】 御質問の趣旨は、定員をもっと増やせないのかということですね。

【委員】 それと、育成された方がまたスタッフとして継続的につながっていくということでも素敵な試みですが、安全管理も含めていろんなことを考えていかなきゃいけないですね。それがまた一つの講座にもなるのかもしれないですが。

定員の考え方は、全部ウエルカムで受け入れるよ、100%超でいいよって感じですか。

【事務局】 森女については、特にチェーンソーを使っての作業になりますので安全管理が最優先になります。講師の方ともお話をした結果、やはり10名が限界となり、今年も10名で実施しました。

また、森の保育者についても、今回定員を10名から15名に拡大してやったわけですが、受講生同士のコミュニケーションがあまり深まらないという弊害もありますので、その辺の兼ね合いを考えながらと言うことになります。

【委員】 あと、里と森の教室もとても参加率が高いですけど、今後も定員を超えて受け入れていくのですか。

【事務局】 里と森の場合ですと、申し込まれた方でも結構来ない方がいます。

【委員】 歩留まりがあって、全員がいつも参加するとは限らないというその兼ね合いが難しいですね。

【事務局】 海上の森大学は、応募していただいた方の中で、全日参加出来る人を優先しています。応募者の中にはやっぱり1回、2回しか参加出来ないという方もいます。

【座長】 全体として非常に盛況ということだと思います。

【委員】 ホンゴウソウは、教えられてもなかなか見つけられるものではありませんが、よく見つかったなと思っています。私は見に行ったとき「あるところにはたくさんあるものだな」と思ったことがあります。知らずに入り込んで踏みつけられてしまうような場所でないか心配です。

【座長】 そろそろ資料2に入っていきたいと思います。

【委員】 カンアオイの分布状況調査については大変御苦労様でした。これで見ますと、吉田川、寺山川、篠田川の流域で生育数が多いことが確認されたということでした。

例えばスマレサイシンについてですが、除間伐、除草等によって、刈った後チヂミザサが繁茂してしまう等いろいろなケースがあって、それはそのときだけでは判断できなくて、それをまた数年経ってから調査することが必要です。長期的スパンで調査をしていく中でどういうふうに復元がされていくのか、生育地が環境全体として守られていくのかというのはデータとしてとれると思います。

湿地の保全も、コドラートでとられた、ビニールひもを巻いたところですね、ヌマガヤ等を抜くこともあってしかるべきというふうに思います。もちろんいろんな小動物が入っていますのでその場で土は落とす必要があります。

そういうことをやってみますと、結局どこの湿地もそうですが、ミズギクとかサワギキョウとかノカンゾウとかシラタマホシクサとか思いもしないものが出てくることもあるので、データをとる楽しみも広がるかと思います。

また、作業には人も必要だし、人力というか頭数も必要だということもわかるんですけども、先ほどの踏圧の心配もあります。例えば 11 月 29 日ですが、専門家が指示して作業の注意事項等を伝えた上でおやりになっているので大丈夫と思いますが、80 名の方が入るということになると、入り方によってはやはり逆に荒れてしまうということもあろうかと思います。

イベントだと人数が多いほうがいいですが、こういう作業は、本当に限られた人数で、上からではなくて下から作業をすとか、いろんなものがあるものですから、その辺の御配慮を常に継続していただきたいと思います。

せっかくデータをとられましたので、今度は是非、ギフチョウの産卵数がどういうふうに変化するのか調べていただきたいと思います。カンアオイそのものは何年も何百年も何万年もかけて生育して伸長していくという大変気が遠くなるぐらいの歴史を持っているとてもデリケートな植物でありますので、アリとか土壌とか日照条件とかいろんな中で生育環境が守られていきます。ギフチョウの数は減ったとはいえ、生息しているものがどのあたりから産卵を取り戻していつてくれるのかというデータが出てくるのを大変楽しみにしておりますので、よろしくお願いいたします。

【座長】 コメントということではよろしいでしょうか。

【委員】 踏圧の心配は大丈夫だったか、そこだけです。

【事務局】 80 名と大人数ですので、私たちも午前と午後の保全活動に分かれて、目の届く範囲ということで 40 名ずつ半々に分かれて、大体 10 人に 2 人の職員をつけて対応しております。活動は一般の方々や大和リースさんが中心でしたので、保全すべき木にはテープを巻くなど、全般的に注意を払いながら実施しております。

また、カンアオイのあるところは、自然環境課の職員で「こういうのがカンアオイだよ」というのも学習しながら活動を実施しております。

【委員】 それと、湿地もせっかく復元したりしていますと、よそから持ってくる人がい

ます。最近、湿地等に外来種を入れたがる人がいるものですから。シラタマホシクサにしるフジバカマにしる、外来種を含めてとにかくいろんなものをまきたがる人がいます。

一度入ってしまうと本当に駆除できないものですから、そういうものが本当に入らないよう、何かそういう傾向が見られたら、早目早目の対策をぜひお願いしたいと思います。

【委員】 私が小さいときは、山に行くとササユリがたくさんありました。私が案内巡視をやっていた5、6年前は、物見山の頂上にも一輪だけ見かけたことがありましたが、今は全然ありません。何かその辺の現状がどうなっているかどうか調査して、ユリが復活できればと思います。昔は抱えるほどユリが採れました。それが今はほとんど見かけない。自然消滅かイノシシに食べられたかどうかわからないですけど。

【事務局】 イノシシも関係あるでしょうけれど、ササユリは多分森が鬱閉してきているのが一番大きいと思います。木を伐ればとりあえず出てくるんじゃないかと思っています。

【委員】 物見山の下のところでは2年から3年前ササを刈ったんです。そうすると、翌々年にササユリが出て、今またササが伸びてしまい出てこない状態です。だからおっしゃる通りなのかなと思います。

【委員】 日照だと思います。

【委員】 ササ刈りね。入梅の頃が一番。そんな頃にちょうど咲きますが。

【委員】 先ほど委員が言われた踏圧については、作業をする人がむやみやたらにやりそうなので、我々も見張って注意しつつ活動しました。

【委員】 最近ちょっと気になるのは、イノシシであったりシカであったり、いわゆる有害獣がかなり発生している件数が多い。そういう中で、この海上の森の中における貴重な植生が壊されるといったことが今後考えられるのか。専門ではないのですが不安になったので、そのへんはどうなのでしょう。

【事務局】 イノシシの被害は大変多くて、遊歩施設でも石畳の大きな石がひっくり返されたりということで、迷惑しているところです。将来的には何か対策を考えていかないといけないと思います。

森の中にも市が設置したワナが3カ所仕掛けてあります。ただ、ワナについても、イノシシは大変警戒心が強い動物ですから、最初はかかるけれど、なかなかかからなくなってしまふということも聞いていますので、その辺は大きな問題とっております。

【座長】 今年何頭かかかったんですか。

【事務局】 頭数は把握していません。

【座長】 では、また御意見あればいただくことにして、先に進めさせていただければと思います。

協議のほうですけれども、海上の森保全活用計画 2025 の進捗管理、それから来年度の実施計画についてということで、まずは御説明をお願いします。

「(1) 協議事項ア、イ」について、事務局から説明

【座長】 ありがとうございます。御意見いただければと思います。

【委員】 人材育成について考えています。万博剰余金で人材育成ということで海上の森大学が行われました。今年海上の森大学同窓会で交流会をやりました。交流会のチラシには、海上の森大学のホームページを見て、海上の森大学の目的などを書きました。チラシを見られた海上の森大学の講師の方から「出来ないことを書くな」と言われました「あなた、人材育成で講義をやったんでしょ」と言いたいです。専門の先生は講義をやって終わりです。人材育成と言っている海上の森センターは、10年実施したからもう人材は育っていると考えているのでしょうか。でも人材育成ということはどういうことかという、専門のことをやっていれば人材が育つというわけじゃない。事務的なこともできるようにならなければいけない。

極端なことを言えば、県がつくった自然観察指導員連絡協議会についてですが、これを知っている県の職員の方は応援していただきますが、若い職員の方は「それ、何」ということで応援もないです。愛知県内で何百カ所という様々な観察会をやっています。延べ何千人という参加者がいます。非常に大きなことをやっていますが、なかなか知られていない。県に手を引かれたら、事務的なことをやる人がいないからがたがたです。同窓会も同じです。

先日、まちづくり協議会でもらってきた資料によりますと、こういう人づくりプロジェクトというものを考えてみえますけれども、センターが考えている人材育成というのは一体どういうものなのかなと。事業を行ったら終わりじゃなく、事業が終わってもそれを育つを見届けるまでが人材育成なのかなと思います。

海上の森の会でも同じだと思います。専門のことをできる人はいっぱいいます。我々でも専門的なことをやっている人は人材がいっぱいいますが、いざ役員になってくれと言うとそれはいやと言う。子供会でも「ぜひ参加したい、でも役員はやりたくない」と。それ

は現状だから、一体県のこのまちづくりだとか人材育成というのほどこまでが人材育成なのかと、そこまで考えないと今後長く続かないんじゃないかなと。当初は何とかなるんだけども、10年先、20年先、やっぱり続かない。

【事務局】 去年までの海上の森大学は、いろんな先生に来てもらって幅がすごく広がったわけです。幅が広い分、皆さんの目標もそれぞれあって、目的がはっきりしないところがあり、一つの目標に向かってみんなで一緒にやるというのはなかなかしづらかったところがあります。そういうこともあって、28年度は海上の森大学のプログラムを大幅に変えました。

森の保育者もそうですし森女にしてもそうですけど、今回の海上の森大学はかなり目標がはっきりしています。そうすると、私どもも支援がしやすいです。森の保育者については実際森の読み聞かせの講座をやりましたし、今後もやっていこうという動きがあります。森女につきましても、実際森女が整備するための森を今回つくりまして、そこを継続してやっていこうという動きがあります。また、来年度新たな森女の受講生が来ましたら、今度先輩たちがその女の子たちを教えるといった流れができそうです。

そういったふうに、目的がはっきりしている講座を今回つくりましたので、それについては今後なかなかうまくいくんじゃないかと思っておるところです。

【委員】 莫大なお金を使って9年間海上の森大学をやったが、人材はあまり役に立っていないということですか。海上の森の会にも入っていないし。

【事務局】 本年度の受講生も、会それから同窓会のほうから声かけしていただきまして、何名か入っていただいていると聞いています。少しずつそういう人を広げていくことは必要なことです。また、これまでは申し訳ないですけど年齢が高い方が中心でした。今回若い人や女性が参加してくれました。これから先10年以上も働いていただける可能性がある方が集まりました。私はその部分は今回の新たな人材育成の目玉だと思っています。

【委員】 でも、今年度海上の森大学同窓会に入ってもらっているのは本当にわずかだから、センターが手を引いたら同窓会の人たちはどうなるのかなと思います。

【委員】 人材育成でどういう人材を育てるかということですけど、それぞれの専門家をここで養成するのはなかなか難しいと思います。海上の森でいろいろな形でかかわってくれる人、あるいは自分たちが学んだことを自分たちが活動する場である程度指導的にできるような人をつくるのが人材育成じゃないかと思います。

【委員】 だからどこまでがというのがね。

【委員】 ここで学んだ後にどうフォローするかということですよ。海上の森の会も相当会員が高齢化していますので、若い人たちに入っていて活動していただきたいんですけど、そういう人をまず養成する。その辺を目標にしていきたいと思います。

【事務局】 森の保育者、森女もそうですけど、海上の森で今後活動できる内容なので、ぜひ会あるいは同窓会の方とひとつ接点をつくって、みんなで整備できるような形にしていければ、将来的にも海上の森もよくなっていくと思います。ぜひ御協力いただきたい。よろしくをお願いします。

【事務局】 海上の森大学同窓会についても、今後もちろんとフォローしていきたいと思っています。

【委員】 森の保育者の講座を1日受けさせてもらいました。それをきっかけに、国が1億総活躍社会ということで子育て支援事業をやっているの、幼稚園の先生から10日間の講義を受けてきました。

次に、今子供たちが抱えている問題を知るため学童保育に行きました。目の前に湿地があるから「土曜日は散歩に行きたいな」と言ったら、「危ないからダメ」と言われました。海上の森センターも「1年に1回だけは「がさがさ探検隊」で協力できる」など、学童保育等との連携は出来ないでしょうか。

イベントの募集をかけると、興味のある親は子供を連れてきます。しかし、興味のない親の子供たちにもそういう体験をさせてやりたいなと思います。そういう子たちにどうやって参加する機会を与えてやればいいのか。興味ある親の子だけを対象にしてはいけないと思います。

子育てや子供たちをとりまく現状は本当に大変だと思います。お母さんたちも本当にストレスがたまっている。だけでも森へ行く余裕もない人たちもあって。

森のようちえんはどういう人たちがターゲットなのかなど。関心のある人だけ対象にするのではなく、もっと違うところとの連携。私たちのNPOはいろんな課と連携を持てます。やっぱりセンターはセンターの立場があって連携が難しいのかもしれませんが、NPOを上手に使ってやってもらおうと、こういう行事ももっと広がるんじゃないかと思っています。

【事務局】 今、森の楽校も森のようちえんも年に2回で、参加者も結構多く、私たちの中でも限界もあります。

それから、計画の中で学校あるいは大学との連携と書きました。今瀬戸の中で来ていただいている学校等がありますが、毎年同じ学校とか幼稚園なので、私たちも特に地元の学

校とか地元の方たちにはもっと PR していかないといけないと思っています。今の話で興味ある方以外でも、例えばクラスでもいいし何かそういう形で幅を広げたいなという思いがあるんです。

【委員】 瀬戸市も環境課と教育委員会が真ん前ですが、環境塾とかそういう人材がいるのに、教育委員会に行ったら全く話聞いてもらえないというような縦割り状態で、やっぱり私たちは枠を超えてやりたいなと思っているんです。

【委員】 難しいです。

【事務局】 まず地元の方たちに、こういういい森があって自然があるということをしつかりと認識していただくことは、センター職員の役目だと思っていますので、そのあたりは頑張っていきたいと思っています。

【委員】 私もいろんな人づくりプロジェクトにも顔を出したいなと思っていますので。

【座長】 ありがとうございます。

【委員】 施設ゾーンに、景観が悪いから伐採木の利用方法を検討とあります。庭だからと言われますが、森全体でこれを考えてほしいんですが。林道沿いでもこの写真のとおり景観になっているので。

【事務局】 おっしゃるとおりです。

【委員】 もう一つが、ここにありませんが林道がイノシシで荒らされたりで、すごく狭くなっています。何かあったときに車が入れなくなる危険があるので、そのあたりの整備も何か計画してほしいと思います。

【事務局】 歩道もそうですね。イノシシが路肩をえぐりまして結構狭いところもあります。そういうところも伐採木を有効利用して、路肩に並べるのも私は一つの木材利用のいいところだと思うので、そのあたりは意識してやっていきたいと思います。

【委員】 今日うちの指導員がホトケドジョウとその生息環境の調査に入っていますけど、イノシシの被害がひどくて、沢が崩れて土砂が相当中に入り込んでいるという報告が先ほどございました。

治山費で予算をとられたそうですが、そういう形でしかなかなか予算がとれないということだと思います。しかし、治山治水と森林整備の事業は表裏一体ですので、このような形で進めることは私は大賛成です。この治山事業による本数調整伐の 4.7ha については写真にあるような場所ということで、こういうところはやるべきであろうと思います。

最後にお話しされた小面積皆伐地等の検討で、実施は 30 年以降ということですので、来

年度については考えていかれるということだろうと思いますが、やはり海上の森の性格からいくと猛禽類が営巣したりいろいろな希少種等もあるものですから、そういう全体の中の動きを見ながらどこを、尾根沿いをやるのか沢沿いをやるのかということで決めていかれると思うので、調査と並行しながら御検討いただければと思います。

それから本年度、治山か何かの展示をやられましたよね。

【事務局】 やりました。

【委員】 瀬戸というのは、海上の森の復元もそうですけれども、ホフマンの森であるとか、定光寺は今、別の問題でちょっと騒ぎが起きておりますけど、いろんな治山事業等があるものですから、そこに一つ焦点を当てたミニセミナーとか、いろんな事業とリンクさせてやっていかれると、森女さんも御参加いただいて学ぶ機会も出てくるのじゃないかなと思います。いかがでしょうか。

【事務局】 今年度海上の森同窓会の交流会では元県職員にはげ山の歴史についての御講義をいただきました。募集をされたところかなりの人数が応募されて非常に好評でした。私たちが時期を合わせてはげ山の展示をさせてもらいました。そうしますと、「初めて見た」「知らなかった」という方も多くいらっしゃいます。昔は瀬戸は道德の授業で委員が言われたアメリゴ・ホフマンなどを教えていたそうですが、今はないようで、やはり私たちもそういうことをPRしていきたい。特に海上の森は昔ははげ山だったので、そのあたりも伝えていきたいと思います。

それから、治山事業についてですが、治山事業にもいろいろなメニューもございますので、積極的に活用していきたいと思っています。

【委員】 地元地域との連携ですが、山口連区等自治会との連携の不足が課題と書いてあり、地元自治会との連携を強化するということですが、山口にすごく立派な郷土館があります。その郷土館との連携はいかがでしょうか、例えばこちらのところで企画展示したものを次にそっちへ持って行って展示していただくとか、あるいは展示だけじゃなくてセミナーなども、小さなお子さんとかあるいはすごく年配の方とか、こちらへのアクセスが問題になるような方を対象とするセミナーの場合はあちらの郷土館をお借りして等の連携もあるんじゃないかと思います。

【事務局】 今生物中心でミニセミナーをやっていますが、アンケートを見ているともうちょっと歴史、文化面の講座が欲しいとおっしゃる方も、いらっしゃいますので、そういう面でうまく連携してやっていきたいと思っております。

【委員】 広報の不足について「国際フォーラムの広報の仕方が堅過ぎる」と、あいち自然ネットの会合で話し合ったことがありました。広報もサポーター等で好きな人が集まって、人が集まりやすい仕組みでみんなでわいわいやりながら作ったらいと思います。

先日も、「本当は漫画家になりたいけれどもなかなかできない」という昆虫好きな人に出会いました。「僕の特技は漫画を描くことだ。漫画を描いて生き物を子供たちに伝えたい。それも忠実に観察した結果の漫画を描いている」ということでした。

だから広報も、いろんな人が集まると面白いチラシができると思います。職員が作るとどうしても堅くなって、ただ何月何日と伝えたいことだけ伝えるというふうになります。

【事務局】 毎月のミニセミナーのチラシでも趣向を凝らして写真も工夫して作っているところです。しかしどうしても行政的になっているかもしれません。単なる告知ではなく、わくわく度を出すように言葉も変えてはいるのですが。そういう方の力も借りていけたらと思っています。

【委員】 今の御指摘に関してですけれども、今年こういうビラを見ていて、変わりましたね。すごく斬新で、よくて。

【委員】 変わりましたね。

【委員】 変わったなと思って。

【委員】 だからすごくいい方向に向いていると思います。それから里山暮らし講座のチラシの炎の画像が私のスマホにぱっと出たときに、すごく魅力的でした。本当に引き込まれるような感じがしました。

【委員】 前と全然違いますね。

【委員】 全然違いますよね。

【事務局】 そちら辺もぜひ評価していただけるなら。

【委員】 そのあたりはすごく高く評価できると思いますし、今後の励みでまた続けていってほしいです。

【委員】 これは海上の森センターの方がつくられたのですか。

【事務局】 全て職員の手づくりです。

【委員】 だから、これもまた参加できると。

【事務局】 そうですね。

【委員】 カンアオイとギフチョウについてですが。ギフチョウは最低何年ぐらいたる御計画ですか。

【事務局】 特にいつまでというのは決めておりません。事業としては28年度、今年度で終わりですが、自然環境保全地域である以上、生息環境をずっと維持していかなければいけないということですので、海上の森の会さんにはご協力をお願いしているところですが、できる限り継続していこうと考えています。あいち森と緑づくり事業の環境活動・学習推進事業交付金を受けながら、東部丘陵生態系ネットワーク協議会の方々と協力したり、企業さんとも連携したりしながら。ただ、長期契約で今お願いできている企業様さんはみえないので、その都度お声かけしてやっていくという形になると思います。何年というのは現時点ではお答えできないですが。

【委員】 ギフチョウのモニタリングは、このたかだか1カ月の間に調べなきゃいけない。A先生が調べられているので、海上の森のギフチョウのモニタリングというのをお願いしておいてほしいです。

【事務局】 そちらはBさんからも御連絡があって私からも御自宅に今メールで問い合わせしております。南山大学の学生さんがその調査にはもう入れないということであれば、調査は1日、2日ということをおつておりますので、「あまりお役には立てないかもしれませんが、県の職員が何名かお手伝いに行けますけどいかがですかね」という相談はしております。

【座長】 ありがとうございます。

【委員】 予算の関係もあると思いますが、調査報告をいただいて中に写真があります。これが白黒ではなくカラーになるといい。実際どんな感じが分からないものですから。

【座長】 予算がないなら例えばネットに掲載するときはカラーで、印刷物は白黒でというように感じにするといいのではないですか。

【事務局】 過去と同じような装丁でやっています。ネットは出しておりませんが、特に新たに発見された種等は、私たちもカラーのほうが良いと考えています。今の御意見、予算の中でやれる範囲ということで考えて行きたいと思います。

【座長】 ぜひ工夫をお願いします。

【委員】 あと一つ、カンアオイの分布調査、立派な調査をやられていますけど、これはまだ継続してやられる予定ですか。それでまた最終的に報告書か何か出される予定ですか。

【事務局】 すみません、こちらも今年度事業です。

ただ、私たちも300万円弱の予算をかけて森の整備をしましたので、その結果が見たいと考えております。Cさんは今後大学院に進んで継続して調査していただけるということ

D 先生から御了解いただいたので、伐採した結果カンアオイが増えたかどうかの調査は、2、3年は続き、事業をやったことの成果としては出していただけるといふふうにお話を伺っております。それをずっと継続できるかということ、そこはまた、特に予算化しておりませんので、自然環境課からのお願いになってくると思います。

【委員】 ぜひ予算をとっていただいて、報告書をお願いします。

【座長】 じゃ修士論文に期待ということで。ぜひ頑張ってやっていただけると。

そろそろ時間がなくなってきましたんですが。

【委員】 調査報告書について、前々回もちよっと御指摘させていただいたんですが、図書番号か雑誌番号を表紙につけた形にして図書館に献本される方が良いと思います。

【事務局】 中の目次のところに付けてありますが、普通は表紙につけるものですか。

【座長】 表紙か裏か。

【事務局】 次回から気をつけたいと思います。

【座長】 ありがとうございます。私からも一言。

まず、人工林については、順調に整備が進んでいるという理解でいいですよ。来年度も面積的には順調にやっていけるということでもいいですか。

【事務局】 はい。

【座長】 それから企業連携については企業のニーズをしっかりと把握するのが大事だと思うので、どうやって企業を増やしていくかなど、少し御相談に乗れる部分があります。

【事務局】 今までは森林の間伐だけを行う企業が多かったのですが、企業さんももっと幅広い活動をしたいという意見があります。その中で里だったりあるいは文化的なところにもニーズがあるので、そこは企業さんの多様なニーズに応えられるようにしていきたいと思っています。また、ほかの団体や地元の方との連携もあると思います。

【委員】 企業連携の関係で一つ新しいお話があります。未来遺産に登録されました関係で、未来遺産に協賛している E 社の地元企業である F 社が、企業連携という形で海上の森で何かやりたいというお話がありました。

【事務局】 ぜひ進めていただければと思います。

【座長】 他によろしいですか。活発な御意見ありがとうございました。

【事務局】 ありがとうございました。

次回は今年の8月か9月頃に開催したいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

本日は長時間にわたりありがとうございました。